



たから

財やちよ



No. 10

2024.9.3
(令和6年)

特集 米本長福寺の文化財

米本にある長福寺（八千代市米本 1587）は曹洞宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来^{あみだにょらい}です。長福寺は寺の南方の米本城城主であった村上綱清^{むらかみつなきよ}が天文 20 年（1551 年）に創建したと伝わっています。

享保 7 年（1722 年）に記された「佐倉風土記^{さくらふどき}」によると、天文弘治（1532～1558 年）年間の頃に米本城の城主であった村上綱清が永禄元年（1558 年）に自殺したとして、その墓は長福寺に存在していると記され、現在も村上綱清の墓と伝わる石塔が残っています

長福寺には村上綱清の墓とされる石塔の他にも貴重な文化財が存在していますが、今回は市指定文化財「戒壇石^{かいだんせき}（銘・禁芸術売買之輩）」、「伝・村上綱清の墓石」^{いたび}、「長福寺の板碑一括」の 3 件についてご紹介します。

○戒壇石（銘・禁芸術売買之輩）（市指定文化財）

禅宗のお寺では寺院全体を戒壇（僧侶に戒を授ける儀式を行なうために設けた壇）とみなし、山門の入り口に「不許葷酒入山門^{くん}（葷酒^{しゅ}山門に入るを許さず：臭いの強い野菜や酒を山門より内に入れてはいけない）」と刻まれた石碑を設け、山門より一歩中に足を踏み入れた空間は「聖域」とされています。

長福寺では山門に向かって右側にはこのように刻まれた石碑が、左側には「禁芸術売買之輩」と刻まれた石碑が立っています。これは今日のような芸術家のような文化人のことではなく、物乞いまいの旅芸人が寺の境内で大道芸を見せ商売にすることを禁じたもので、天保 9 年（1838 年）に建てられ高さは 200 c m あります。

このように刻まれた戒壇石は全国的にも珍しく、昭和 53 年に市指定文化財とされました。



「禁芸術売買之輩」



「不許葷酒入山門」

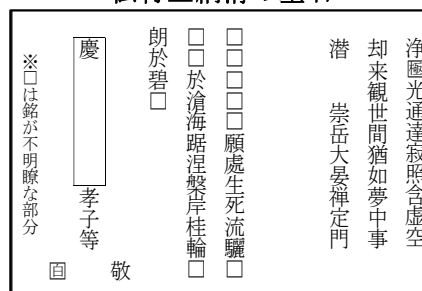
○伝村上網清の墓石（市指定文化財）

寺の南方にあった米本城の城主であったとされる村上網清の墓と伝えられている五輪塔です。五輪塔とは仏教において万物を構成する五大元素、地・水・火・風・空をかたどったもので、下から地輪・水輪・火輪・風輪・空輪の5段の石で構成されています。

高さは145cmで一番下の地輪部分には曹洞宗の回向文（法事の終わりに唱える経文）と年号と思われる「慶」と思われる文字が刻まれています。網清の死後に「慶」の字が付く最初の元号は江戸時代初期の「慶長(1596～1615)」であるため、もしこの五輪塔が網清のものであるとすれば、死後40年以上たってから子孫が供養のために建てたものかもしれません。



伝村上網清の墓石



地輪部分の銘文

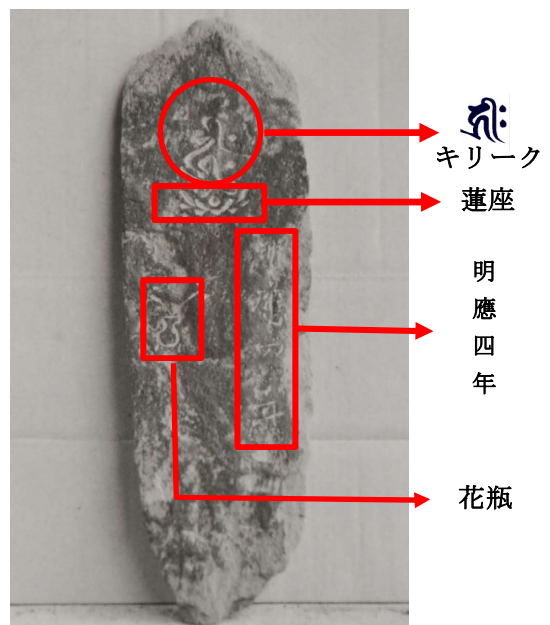
○長福寺の板碑一括（市指定文化財）

板碑とは板状に加工した石で作られた供養塔です。かつて長福寺の山門を入ってすぐ左側には薬師堂があって、板碑はその敷地の奥とそれに続く隣家の裏山の斜面から出土しました。

年号の判読できるもので最も古いものは文正2年(1467年)で新しいものは享禄年間(1528～1532年)です。板碑の形式は「武蔵式」と呼ばれるもので、埼玉県を中心に関東地方で多く作られています。材質は緑泥片岩で、刻まれている種字（仏を象徴する文字）はほとんどが阿弥陀仏（キリーク）です。この時代の紙に記された史料は少なく、これらの板碑は当時の歴史を知る上で貴重なものです。



板碑一括の一部



明應四年の記銘のある板碑